

令和8(2026)年度

南和広域医療企業団南奈良看護専門学校

【公募推薦C】入学試験問題

国語

注意事項

- 1 試験監督の指示があるまで問題を開けてはいけません。
- 2 試験問題は、問題1から問題19までです。試験時間は50分です。
- 3 問題冊子、解答用紙には必ず受験番号と氏名を記入し、解答用紙の受験番号欄に正しくマークしてください。
- 4 解答は、①～⑤の選択肢から正解を一つ選び、解答用紙の該当する番号をマークしてください。二つ以上マークした場合には誤りとなります。
- 5 マークは、解答用紙の「マークの方法」の「良い例」のように丁寧に塗りつぶしてください。
- 6 試験中に問題の落丁・乱丁に気付いた場合は、手を挙げて試験監督に知らせてください。
- 7 問題冊子と解答用紙は回収します。室外への持ち出しを禁止します。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(問題は次のページから始まる)

第1問 次の各問いに答えよ。

問題1 次の傍線部に示す漢字の読み方が正しいものをそれぞれ一つずつ選択せよ。

- (1) ① 彼は道ですれ違った知人に、軽く会釈(かいしゃく)をした。
② 彼女の軽率(けいりつ)な一言が、チーム内の雰囲気(きんぎゆう)を悪くしてしまった。
③ 監督は成績不振のため、シーズン途中で更迭(こうそう)された。
④ 若くしてこのような偉業を成し遂げるとは、まことに希有(けう)なことだ。
⑤ この資料を読めば、彼の考えの一端(いつぱし)を知ることができる。

- (2) ① 旅行記が長くなりすぎたので、一部のエピソードを割愛(さくあい)した。
② 彼は厳しい納期にもかかわらず、その大仕事を無事に完遂(かんすい)した。
③ 業界の慣行(かんぎよう)に従い、契約書には特定の条項が盛り込まれた。
④ 応募書類の指定された場所に、証明写真を貼付(せんぷ)してください。
⑤ このパーツは、多くの機械に使える汎用(ぼんよう)性の高い設計になっている。

問題2 傍線部の漢字の用法が正しいものをそれぞれ一つずつ選択せよ。

- (1) ① 彼女の性格は否(ひ)の打ち所がない。
② 他とは一線を隔(へ)す新商品が誕生した。
③ 教科書の重要なポイントを把握(かっ)する。
④ 欠(か)けがえのない家族こそが私の宝物だ。
⑤ 相手からの助けを恩(おん)に切(き)る。

(2) ① 怠惰な日常はすぐに改善すべきだ。

② 上司は常に腹が座っている。

③ 彼の体験談は小説の粗材として魅力的だ。

④ 政府は教育のための予算を係上した。

⑤ 友人の発言に異和感を覚えた。

問題3 次の傍線部と同じ漢字を使うものをそれぞれ一つずつ選択せよ。

(1) 特別な措_チで入国を許可される。

① 被疑者を警察署に留_チする。

② 升_チ密な研究が高く評価される。

③ 二つの指紋が一_チする。

④ 過去の_チ辱が忘れられない。

⑤ 住んでいる自_チ体に寄付をする。

(2) 病人を介_{ホウ}する。

① 全体を_{ホウ}括して扱う。

② 彼は_{ホウ}丸投げが得意だ。

③ 今年の_{ホウ}負を述べる。

④ ドラマが_{ホウ}映される。

⑤ 細_{ホウ}が分裂する。

問題4 次の言葉の意味として最も適当なものをそれぞれ一つずつ選択せよ。

(1) 羊頭狗肉くにく

- ① 最初は勢いがよく盛んであるが、終わりにになると衰えてしまうこと。
- ② 見かけは立派であるが、実質がともなわないこと。
- ③ 他人の力に頼らずに、自分の信じる道を進んでいくこと。
- ④ 初めから終わりまで、態度や方針が、ずっと同じで変わらないこと。
- ⑤ その場のなりゆきに応じて、適切な手段をとること。

(2) 鼻をあかす

- ① 相手がいい気になっているすきに出し抜いて、あつと言わせること。
- ② ちよつとばかり賄賂をつかませること。
- ③ ある物事に心を奪われてぼんやりすること。
- ④ 相手から受けた攻撃に対して、わずかでも反撃、反論をすること。
- ⑤ 非難や攻撃の対象にして責めること。

(3) 耳を疑う

- ① 初めから、人の話や意見を真剣に聞こうという気がないこと。
- ② 人の言うことが自分の弱点を突いていて、聞くのがつらいこと。
- ③ 聞くともなしに聞くこと。ふと耳にすること。
- ④ 思いもよらないことを聞いて、聞き間違えではないかと思うこと。
- ⑤ 同じことを、うんざりするほど繰り返し返して聞かされること。

問題5 次の意味を表す言葉として最も適当なものをそれぞれ一つずつ選択せよ。

(1) 世の中で自分ほどえらいものはないと、うぬぼれること。

- ① 誇大妄想
- ② 我田引水
- ③ 厚顔無恥
- ④ 唯我独尊
- ⑤ 自画自賛

(2) 人生、思いがけないことが幸福を招いたり、不幸につながったりして、だれにも予測はつかないというたとえ。

- ① 小馬の朝駆け
- ② 塞翁が馬
- ③ 馬には乗ってみよ人には添うてみよ
- ④ 馬の耳に念仏
- ⑤ 馬が合う

問題6 次のうち、「顯著」と同じ意味を持つ語句として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 騒然
- ② 明暗
- ③ 歴然
- ④ 莊嚴
- ⑤ 明示

問題7 次のうち、「斬新」と反対の意味を持つ語句として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 中古
- ② 旧弊
- ③ 衰退
- ④ 新興
- ⑤ 陳腐

問題8 次のうち傍線部の言葉の用法が正しいものを一つ選択せよ。

- ① 本校で教鞭を振るうようになって十年が経つ。
- ② 両親の教えを骨身に刻む。
- ③ 彼は入社してすぐに、営業担当として頭角を伸ばした。
- ④ 予算の上限を上げることに二の足を踏む。
- ⑤ 彼は世界を足でまたぐ冒険家だ。

問題9 次の記述に当てはまる人物の名前として正しいものを一つ選択せよ。

この人物は、明治五年に長野県で生まれ、昭和十八年に大磯で没した詩人・小説家である。明治二十六年に『文学界』を創刊して浪漫主義文学の中心人物となった。明治三十年に詩集『若菜集』を刊行し、詩壇の第一人者として活躍したが、その後、詩作を絶ち、明治三十九年に小説『破戒』を発表して自然主義文学の先駆けとなった。昭和初期に大作『夜明け前』を完成した。晩年も創作意欲を失わず、常に新しさを追求し、知性と情熱を併せ持つ求道者的作家であった。

- ① 小林多喜二
- ② 横光利一
- ③ 井上靖
- ④ 遠藤周作
- ⑤ 島崎藤村

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

僕はまず、「二十五歳未満の者、小説を書くべからず」という規則をこしらえたい。全く、十七、十八ないし二十歳で、小説を書いたって、しようがないと思う。

とにかく、小説を書くには、文章だとか、技巧だとか、そんなものよりも、ある程度に、生活を知るといふことと、ある程度に、人生に対する考え、(ア) 人生観といふべきものを、きちんと持つといふことが必要である。

とにかく、どんなものでも、自分自身、独特の哲学といったものを持つことが必要だと思ふ。それが出来るまでは、小説を書いたって、ただの遊戯に過ぎないと思ふ。だから、二十歳前後の青年が、小説を持つて来て、「見てくれ」といふものがあつても、実際、挨拶のしようがないのだ。で、とにかく、人生といふものに対しての自分自身の考えを持つようになれば、それが小説を書く準備としては第一であつて、それより以上、注意することはない。小説を実際に書くなどといふことは、ずっと末の末だと思ふ。 (A)

実際、(イ) 小説を書く練習といふことには、人生といふものに対して、これをどんな風に見るかといふこと、——つまり、人生を見る眼を、段々はつきりさせてゆく、それが一番大切なのである。

我々が小説を書くにしても、頭の中で、材料を考えているのに三四カ月もかかり、いざ書くとなると二三日で出来上がってしまうが、それと同じく、小説を書く修業も、色々なことを考えたり、あるいは世の中を見たりすることに七八年もかかつて、いざ紙に向かつて書くのは、一番最後の半年か一年でいいと思ふ。

小説を書くといふことは、決して紙に向かつて筆を動かすことではない。我々の平生へいぜいの生活が、それぞれ小説を書いているといふことになり、また、その中で、小説を作っているべきはずだ。どうもこの (ウ) 本末を転倒している人が多くて困る。ちよつと一二年も、文学に親しむと、すぐもう、小説を書きたがる。しかし、それでは駄目だ。だから、小説を書くといふことは、紙に向かつて、筆を動かすことではなく、日常生活の中に、自分を見ることがだ。すなわち、日常生活が小説を書くための修業なのだ。学生なら学校生活、職工ならその労働、会社員は会社の仕事、各々おのおのの生活をすればいい。そうして、小説を書く修業をするのが本当だと思ふ。

では、ただ生活してさへ行つたら、それでいいかというに、決してそうではない。生活しながら、色々な作家が、どういう風に、人生を見たかを知るが大切だ。それには、やはり、多く読むことが必要だ。 (B)

そして、それら多くの作家が、いかなる風に人生を見ているかといふことを、参考として、そして自分が新しく、自分の考えで人生を見るのだ。言い換えれば、どんなに小さくとも、どんなに曲がついていても、自分一個の人生観といふものを、築きあげて行くことだ。

こういう風に、自分自身の人生観——そういうものが出来れば、小説といふものも、自然に作られる。もうその表現の形式は、自然と浮んで来るのだ。自分の考えでは、——その作者の人生観が、世の中の事に触れ、折に触れて、表われ出たものが小説なのである。

すなわち、小説というものは、ある人生観を持った作家が、世の中の事象に事よせて、自分の人生観を発表したものなのである。だから、そういう意味で、小説を書く前に、まず、自分の人生観をつくり上げることが大切だと思う。

そこで、まだ世の中を見る眼、それから人生に対する考え、そんなものが、ハッキリと定まっていないう、独特のものを持っていない、二十五歳未満の青少年が、小説を書いても、それは無意味だし、また、しようがないのである。

そういう青年時代は、ただ、色々な作品を読んで、また実際に、生活をして、自分自身の人生に対する考えを、的確に、築き上げて行くべき時代だと思う。もつとも、遊戯として、文芸に親しむ人や、あるいは又、趣味として、これを愛する人達は、よし十七八で小説を書こうが、二十歳で創作をしようが、それはその人の勝手である。(エ) いやしくも、本当に小説家になろうとする者は、すべからず隠忍自重して、よく頭を養い、よく眼をこやし、満を持して放たないという覚悟がなければならぬ。

僕なんかも、始めて小説というものを書いたのは、二十八の年だ。(オ)

とにかく、自分が、書きたいこと、発表したいもの、また発表して価値のあるもの、そういうものが、頭に出来た時には、表現の形は、あたかも、影の形に従うがごとく、自然と出て来るものだ。

そこで、いわゆる小説を書くには、小手先の技巧なんかは、何にも要らないのだ。短編なんかをちよつとうまくまとめる技巧、そんなものは、これから何の役にも立たない。

これほど、文芸が発達して来て、小説が盛んに読まれている以上、相当に文学の才のある人は、誰でもうまく書くと思う。

そんなら、どこで勝つかと言えば、技巧の中に匿された人生観、哲学で、自分を見せて行くより、しようがないと思う。(カ)

だから、(オ) 本当の小説家になるのに、一番困る人は、二十三歳で、相当にうまい短編が書ける人だ。だから、小説家たらんとする者は、そういうようなちよつとした文芸上の遊戯に耽ることをよして、専心に、人生に対する修業を励むべきではないか。

それから、(カ) 小説を書くのに、一番大切なのは、生活をしたということである。実際、古語にも「(キ)」というが、それと同じく、小説を書くには、若い時代の苦勞が第一なのだ。金のある人などは、真に生活の苦勞を知ることが出来ないかも知れないが、とにかく、若い人は、(ク) 十分に人生の辛酸を嘗めることが大切である。(ク)

作品の背後に、生活というものの苦勞があるかないかでは、人生味といったものが、何といつても希薄だ。だから、その人が、過去において、生活したということは、その作家として立つ第一の要素であると思う。そういう意味からも、本当に作家となる人は、くだらない短編なんか書かずに、専ら生活に没頭して、将来、作家として立つための材料を、収集すべきである。

かくのごとく、生活して行き、そうして、人間として、生きて行くということ、それが、すなわち、小説を書くための修業として第一だと思う。

(菊池寛「小説家たらんとする青年に与う」による。旧字旧仮名は新字新仮名に改めた。)

問題 14 傍線部(エ)「いやしくも」は本文中でどのような意味で用いられているか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 奇しくも
- ② 仮にも
- ③ 不相応にも
- ④ 偶然にも
- ⑤ いい加減にも

問題 15 傍線部(オ)「本当の小説家になるのに、一番困る人は、二十三歳で、相当にうまい短編が書ける人だ」とあるが、筆者がそう考える理由として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① うまい短編が書けても自分独自の人生観や哲学が浅ければ、文学の才がある人に勝つことはできないから。
- ② 小説を書く際の技巧として短編と長編では大きな違いがあるため、二十五歳近くになって短編しか書けないのでは意味がないから。
- ③ うまい短編が書けても、青年時代に身に付けた小手先の技巧では、文学の才がある人には勝てないから。
- ④ 表現の形は年を取ることに自然に身に付くため、年齢を重ねることに周りが自身の実力に追いついてしまうから。
- ⑤ 青年時代に身に付けた小手先の技巧は、時代が変われば通用しなくなるため、徐々に売れない小説家となってしまうから。

問題 16 傍線部(カ)「小説を書くのに、一番大切なのは、生活をしたということ」とあるが、筆者がそう考える理由として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 若い時代に苦労を重ねるほど、巧みな心情表現や技巧を身に付けることができるから。
- ② 若い時代に人生の辛酸を嘗めた人ほど、読者の心情を推し量る力を養うことができるから。
- ③ 真に生活の苦労をすればするほど、その人固有の人生観や哲学は磨かれていくから。
- ④ 人間らしく生活することに、作家として生きるための材料が最も散らばっているから。
- ⑤ 懸命に生活をして人生の中で苦労を味わった作家の小説には、深い人生観が現れるから。

問題17 空所（キ）に当てはまる文として最も適切なものを一つ選択せよ。

- ① 手塩にかける
- ② 良薬は口に苦し
- ③ 可愛い子には旅をさせろ
- ④ 濡れ手であわ
- ⑤ 雨降って地固まる

問題18 傍線部（ク）「つぶさに」は本文中でどのような意味で用いられているか。最も適切なものを一つ選択せよ。

- ① 細かに詳しく
- ② いろいろな方面にわたって
- ③ 思慮分別もなく
- ④ 秩序立てた論理で
- ⑤ ひたすらに心を集めて

問題19 本文で述べられているものとして最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① どんな理由であれ、二十五歳未満の者は小説を書くべきではない。
- ② 自分自身の人生観に加え、自分独自の表現形式を身に付けるべきである。
- ③ 二十五歳未満の青少年の多くは、世の中を見る眼が定まっていない。
- ④ 紙に向かって筆を動かす練習は、人生観が養われた後の、最後の最後に行うべきである。
- ⑤ 小手先の技巧は、青年時代に苦労を重ねる中で自然と身に付くものである。

